

# ひゅーまん ねつとわーく

# 地域に生きる

2014年1月 発行 / 第56号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル203 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



## ジョブサイトよど よどまつりの様子

上左写真：ご出演いただいた Tomoko Unit の水谷裕さん    ご利用者Yさん    Tomoko Unit の Tomoko さん  
上中写真：福留健太郎さん    木村健人さん    宮城亮さん    上右写真：福田雄三さん  
下右写真：横山スタッフ    神崎慎平さん



# 平成26年 新年のご挨拶

社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 <sup>なか</sup> <sup>むら</sup> <sup>せつ</sup> <sup>し</sup>  
中 村 節 史

新年のご挨拶を申し上げます。

私は昨年のご挨拶の中で、一昨年12月の衆議院の総選挙で自民党が圧勝し、安倍総理が声高に「アベノミクス」によるデフレの脱却を掲げたにもかかわらず、**2013年は結局「だらだらした状態が続く一年」**であろうと申し上げました。それは2013年は「2012年問題」を引きずっている年であり、世界的枠組みから見て、政治的にも経済的にも、又社会的にも問題点が多すぎて、課題の解決には時間がかかり、新しい展望が開かれるのは未だ未だだとの思いがあったからです。

従って我が国においても、アベノミクスはデフレ脱却のカンフル剤となり、円安による業績の好転が見られたとしても、国全体としては方向の定まらない、期待値先行で具体的実績の少ないだらだらした年になるであろうと申し上げた訳です。「経済財政白書」はアベノミクスの成果を強調していますが、**期待感に支えられた、未だまだ実績の少ない一年だった**と思います。

私は「**2014年を油断のならぬ年**」であり、又「**実績の求められる年**」でもある年とも思っております。

**世界的**には2008年のリーマンショックから6年が経過し経済の立ち直りの兆候は昨年から出つつあるが、一方で中国経済の減速、欧州の政府債務危機の再燃、など下振れリスクも含んだ**二面性**を持った年であること。

**我が国**においては日銀の金融大幅緩和策がかなりのインパクトを示しているので、景気が好

循環に乗っていく可能性もあるが、消費税増税をきっかけに需要の落ち込みが発生することは確かであり、大型の補正予算があるとしても、政府の経済落ち込みの回避策即ち第3の矢が上手くいかなかった場合は「経済財政白書」のシナリオ通りにはならないものと考えられます。

又この場合は**マクロでは経済政策の成功、ミクロでは失敗**という現象も十分に考えられます。特に現政権の性格上弱肉強食の匂いもありますので、弱者にはつらい年になることも十分考えられます。そういう意味で今年は「**油断のならない年**」、「**期待値から実績の年**」と申し上げる訳です。

以上のような政治経済の状況の中で、我々の**障害福祉**の世界においても「**油断のならぬ一年**」となると思います。

国連の障害者権利条約に我が国が批准し国連への提出の運びとなったことは、障害者の人権という観点からは、画期的なことであり、我が国もようやく一人前の国になった感はありますが、**実質的処遇の改善**はこれからのことであり、**障害福祉の枠組みが今年大幅に改善される**ことはないと思います。

むしろ、財政状況がはっきりしない中、マクロで成功ミクロで失敗のつけは福祉の社会に来る恐れは十分あると考えるべきだと思います。

元々、日本は「**中負担、中福祉**」というのが福祉の形であり、北欧のように「**高負担、高福祉**」

とはなり得ないと思います。しかし、福祉の世界では、「低負担、高福祉」を目指してきたところもあり、そのたびに挫折感を引きずってきました。しかし、我々が気を付けるべきことは、「中負担、中福祉」どころではなく、「高負担、低福祉」になっていく危険性もあるという事です。

我々は、もう一度日本の福祉の形は「中負担、中福祉」という事を踏まえて、それが確実に実現されていくこと、その中で、我々障害福祉に携わる者は、「いかに中福祉の質を高めていく努力をするか」という事だと思っています。

福祉政策の中でも障害福祉施策については支援の谷間にある分野がかなり多いものですから、大きな制度上の改善が期待できない2014年の取り組みとしては、その谷間にある施策にピンポイントを当てて、改善を図っていくことが肝要かと思っています。具体的には「**強度行動障害の方の地域での暮らしの改善**」や「**重症心身障害者施策**」などがそれらにあたるかと思っています。

**北摂杉の子会の2014年**は第3次中期計画の3年目になります。中期計画の大半の重要実施事項が数年にわたる、しかも資金とエネルギーのかかるものばかりですので、国の制度や方向性、財政の状態がはっきりしない2013年度においては、取り組みの基礎固めに重点を置かざるを得ないものもありました。

具体的には、ジョブサイトひむろの移転案件、次期ケアホームの建設などです。又今までに種をまいてきて、昨年度実績とする予定のもので、取りこぼしているものもあります。発達障害や相談支援の分野などです。

今年度は今までの活動をきちんとした実績に表すことが法人に求められていると思います。取りこぼしを埋め、既存の事業を地道に磨き上げていくだけでも、法人の体制、体力は格段に強

化されていくと思います。そしてそのことが当法人に対する信頼感を増すことになり、ジョブサイトひむろの移転や次期ケアホームの建設にもつながってくるものと思います。

2014年も「現場力」「突破力」「提案力」を合言葉に、中期計画の実行に邁進しますので、皆様何卒よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

最後になりますが、新年の冒頭に当たり私が特に大切にしたい概念に「**合理的配慮**」があります。

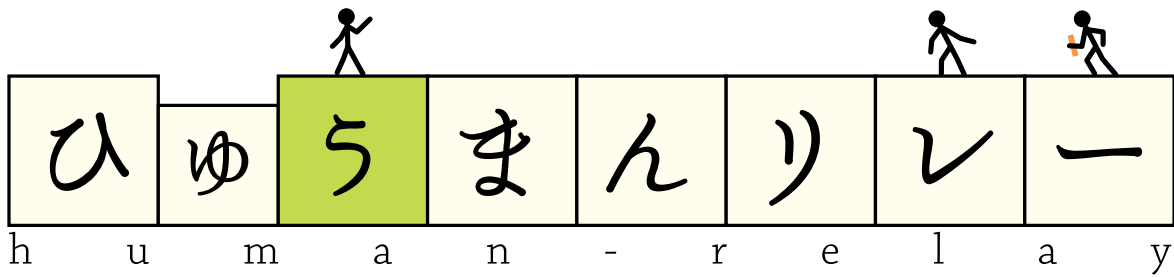
元々は1990年の障害を持つアメリカ人法の概念ですが、国連の障害者権利条約の第2条に定義されているもので、「障害のある人が他の人同様の人権と基本的自由を享受できるように物事の本質を変えてしまったり、多大な負担を強いったりしない限りにおいて、配慮や調整を行う事である」とあります。

我が国では「障害者権利条約」の批准に至る過程の中で広まってきた概念ではありますが、障害者に対する合理的配慮については、当法人の松上常務理事の「障害者の障害特性に応じた環境配慮」という言い方がわかり易いと思っています。

私はこの「合理的配慮」という概念は、障害者の人権という事だけにとどまらず、「多様性」「共生」と共に社会全体に通ずる21世紀の大切な概念であり、キーワードだと思っています。

「多様性」「共生」「合理的配慮」というキーワードをよろしくお願い致します。





京都国際社会福祉センター 京都市横大路学園 ちば あきお 千葉 晃央さんより



## 『13年目に突入！ 「家族をテーマにした事例検討会」！』

「この人にどの程度のことを話そうか？」診察時、実はもっと不摂生をしているけれども、先生に怒られるから言うのはやめておこう、以前の薬を飲んでいないことは言わないでおこう。この人に言っても不愉快な反応があるだけだろう、だから言わない。仕事どうですか？どんな仕事ですか？ときかかれても、相手の人に理解してもらえないなあ、いろいろ言われるのは嫌だなあとと思うと話さない。

われわれ福祉現場でも同じだ。援助者はいくらラポールを!とか、心理、生理、社会を総合して全人的に関わるのが社会福祉学だ!と挑んだところで、相手は「この人にどのくらいのことをいつどの程度に接しようか」と考えている。「品定め」という言葉が適当とは思わないが「今度の担当者はどんな人だろう?」「ここの相談員はどんな人だろう?」とみている。やり取りの中で、ピントがぼけていることを聴いてくる、ここをきいて欲しいのに!というところを聴いてこない、そこに反応してほしいのに!と思うところをスルー

される。特に出会いの初期にこうなってくるとその後の展開は厳しい。

私たちはプライベートなことを扱う。いろいろきいてくるけれども、あなた誰?さっき会ったところですよ!な状況の中でプライベートを扱うのである。そこでの扱われ方で、相手が援助職に対し不遜や不足を感じてしまったら。そういう人間レベルでの相手とのやり取りが存在するのが我々の現場である。そこで力を発揮できることこそ、信頼できる援助者ではないか。

140回目になる。13年目に突入した。私は「家族をテーマにした事例検討会」を立命館大学を会場にして主催してきた。8月を除く毎月第3木曜日に行っている。アドバイザーは立命館大学大学院教授の団士郎先生と同志社大学心理学部教授の早樫一男先生が務めてくださっている。

参加費はいただいていません。お金がかかることを理由に研修に行かない方もいるからで

す。お金がかからなくても自己研鑽ができる場を作りたかったのです。

事前の参加申し込みはいりません。忙しい業務のなかで参加申し込みの締切があると申し込み忘れることもあります。また、急に予定が空いた時にでも参加ができるようにです。

会の前半は名前と所属と「自分が関わっているところで話題になっていること」を一人3分程度話します。自分の関わっているところしか知らない援助者にならないことを目的にしています。この会でインフォーマルなつながりができることで各現場の力量がアップすることも狙いです。

会の後半は事例検討です。ひとつの事例を取り上げ、少ない情報からこの事例に今起っていること、これまで起っていること、これから起ること、起こりそうで起っていないことなど、自由に連想していくジェノグラムワークです。この事例検討の方法が先ほどの「ききどころ」をきき逃さず、相手に「あんたよくきいてくれた!」と思ってもらえる援助者になるために役に立ちます。このやり方の効果は、こうして140回12年この事例検討が続いていることが証明してくれています。

私は知的障害者授産施設（当時）の職員をしながら、京都国際社会福祉センターの家族療法訓練を受講しました。もともと学生時代に「家

族療法」を知り、学びたいと思っていました。大学では社会福祉学部で学びましたが、独特な「家族療法」の視点、援助技術はとても新鮮で、なおかつ納得のいくものでした。そして、それが今ではソーシャルワーク分野では当たり前になっている「システム論」がベースになっていると知るのは、ずっと後のことでした。その後、大学院でも家族療法をテーマにし、そこからこの自主勉強会を主催することになりました。

福祉制度はすぐによくはなりません。潤沢な人員配置も難しい。そこでわれわれ現場ができることは、こうした「自主的な」研修をする意欲やモチベーションを大切に、我々援助職の「集団規範」、つまり大切にしている価値観として持つことと考えています。（最近の資格乱立と強制義務研修の横行は援助職の大切な何かを搾取しています。）そして、正式にきくことではないけれども、ちょっときいてみよう、そうしてきいたことが今度は次にそれも知ったうえで次の利用者さんに対応できる職場になる。こうしていくこともわれわれ現場のできる努力ではないかと考えています。

援助職の方への様々な研修をしています!

京都国際社会福祉センターホームページ  
<http://www.kiswec.com/>

# 地域における包括的支援体制の構築をめざして ～地域連携を考えて～

## 地域連携とともに構築する 高等教育機関の学生支援にむけて



立命館大学 学生オフィス・特別ニーズ学生支援室  
支援コーディネーター・臨床心理士

ヒューバート <sup>まゆみ</sup>真由美さんより

明けましておめでとうございます。社会福祉法人北摂杉の子会関係者の皆様にとりまして、本年が実り多き年になりますよう、祈念いたします。

昨年の2013年は、高等教育機関の障害学生支援におきまして、マイルストーン（画期的な出来事）となる大きな出来事がありました。既にご承知の通り、国連障害者権利条約への批准へ向けて、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法）」が制定され、高等教育機関においても障害学生への差別禁止と合理的配慮の提供の仕組み作りが求められる法的な整備が始まることとなりました。現在、各大学において、障害学生を含む、多様なニーズを抱える学生の状況把握や教育的な支援のあり方の議論が活発に行われています。特に発達障害やその可能性を持ち、大学における学びにつまづきを経験している学生の存在が認知され始め、同時にそうした学生の把握数が急増しているといった現象が起こり、高い関心を集めています。

立命館大学も2011年度より、特別ニーズ学生支援室を設置し、そうした学生の支援ニーズの把握と大学で実施可能な支援のあり方を模索してまいりま

した。この3年間、特別ニーズ学生と教職員と共に支援の試行錯誤を実施して見えてきましたことは、発達障害学生も、他の学生と同様に、大学という主体的な学びと成長を目指す環境の中で、その体験から自己理解を深め、環境（社会）との関係性を考え、自己選択、自己決定（キャリア形成）ができる学生へと成長することの大切さ、そして支援はそのためにあることということでした。またこうした支援の実現は、大学単独では、成し遂げられないものであり、入学前から、卒業、就職へと継続的に移行することが可能な地域支援とのシームレスな（継ぎ目のない）連携システムが不可欠であることも実感としてわかって参りました。

地域と大学との連携支援で大変効果的であった一例が、2012年度から実施されました、北摂杉の子会のジョブジョイントおおさかと株式会社インサイトの企画による、「大学生のための企業でのインターンプログラム」でした。大学においても、正課（授業）や課外活動の学びから、社会での自立に向けたキャリア形成を達成することは可能ですが、発達障害学生にとっては、もっと直接的で具体的な就労体験と適切なフィードバックによる職業観や自己理

解の気付きの機会が必要でした。福祉と企業と大学が連携するこのような若者の学びと成長の場が提供されましたことは、大学にとりましても、支援体制を考える上での視野の広がりや課題解決の糸口

となった素晴らしい支援施策でした。

今後さらに、大学と地域との協働における学生支援が発展し、様々なニーズを抱える若者の社会的自立への支援が充実しますことを切に希望致します。

守口市立わかくさ・わかすぎ園 園長 佐 藤 明紀子 さんより

わかくさ・わかすぎ園は、知的障害児通園施設「わかすぎ園」と肢体不自由児通園施設「わかくさ園」が併設の施設でしたが、平成24年の児童福祉法の一部改正により福祉型の児童発達支援センター「わかくさ・わかすぎ園」として運営しています。

現在、通所の子ども76名と保育所等訪問、地域の子ども達の支援をしています。

通所の子どもの内11名が、専門個別療育「くま組」です。くま組では、北摂杉の子会自閉症療育センター Link の谷岡センター長、竹内先生方にお世話になっています。

くま組は平成24年度から開始予定で、さあ大変!と前年度の年明けから、Linkに見学に行かせて戴いた職員の話の聞いたり、TEACCHプログラムの書籍等を読んで勉強会をしたり、Linkの先生方からご指導をして戴いたりと毎日の仕事と並行して準備を進めていきました。何しろ個別の療育は初めてで、職員の中に不安と期待が入り交じり時間だけが過ぎていきました。療育の場所は、2FのADL・作業室を整備しボックスを作りましたが、殆ど有る物を利用した手作り満載でした。

自立課題・あそび・運動遊び・まったり(リラックス)・おやつ(歯磨き)のエリア一つ一つ職員みんなで考えながら設定しました。スケジュールやワークシステムもLinkを参考にさせて、戴き作りました。

子どもや保護者との面談が終わりいよいよ始まるとなると不安が徐々に大きくなりましたが、Linkの先生方のアドバイスも戴いたし、準備は出来ているので後は肩に力を入れ過ぎず「わかくさ・わかすぎ園方式でやって行こう!」とやや開き直り😊でコミュニケーションをし、開始日を待つばかりとなりました。

6名の子どもたちに職員12名で1:2体制で24年6月から始まり、Linkの先生に来園して戴き、実際に見て戴いたり、ビデオを撮って後日振り返りを一緒にして戴き、ワークシステムの使い方の拙さ・評価の仕方・声のかけ方等本当に細かく指導して戴きました。その事柄を踏まえて、人的物的環境を整え徐々に個別療育支援にも光が見えてき、職員にも自信が出てきたようでした。これも機関支援で一方的ではなく一緒に考えて下さるスタンスでのアドバイスやご指導をして下さったLinkの先生方のご尽力の賜と感謝しております。年度の終わりには1年間を振り返り次年度に向けての会議をし改良点を出し合い、遊びをすっきりと充実させたり、ボックスもしっかりした物を建築課で造ってもらいました。

今年度のくま組は1:1体制で行い他の職員のフォローを得て、子どもも保護者も職員も楽しく明るく元気に療育をしています。勿論、引き続きLinkの先生方に支援をお願いし私たちも日々学び合っています!



茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園  
園長代理 <sup>よ</sup>ね <sup>じ</sup> <sup>え</sup>つ <sup>こ</sup>  
米 地 悦 子 さんより

茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園は、茨木市西部の自然豊かな高台にあります。「からだ・さんぽ」「つくる」「リズム」「コミュニケーション」などの課題別支援計画と個別支援計画のもと、日々の生活やあそびの中で成長発達を促すことをねらいとしている通所施設です。3歳児から5歳児までの子ども達が月曜から金曜まで、通園バスに乗って元気に通っています。子ども達の発達状況や課題はさまざま、職員も日々試行錯誤しながら子どもそれぞれにあった支援は何かを考え、療育にあたっているところです。

昨年度、自閉症療育センター willより声をかけていただき、平成24年10月から機関支援として「巡回相談」に来ていただいています。この10月で1年を迎えました。

「巡回相談」では、毎回のスタッフが子どもの様子を観察、環境や関わり方等のアドバイスをさせていただきます。時にはwillで使用している支援グッズを持ってきてくださったり、willの環境設定の様子を画像で見せてくださったり、まさに私たちにも「視覚支援」です。具体的に見ることのわかりやすさを実感しています。

観察をしながら、子どもの評価や環境設定の仕方を一緒に考えたり具体的なアドバイスを受けることが出来、すぐに実践にいかせると職員に好評です。評価反省しさらに深めていくことを繰り返していく中で、子どもが理解をしていく姿に手ごたえを感

じています。また、そのアドバイスをクラス集団の中でも活用し、クラス全体の子どもの変化や成長も実感することができました。一クラスの担任が教えていただいた内容を職員研修で園全体におろすことで職員のスキル向上にもつながり、大変ありがたく思っています。

また、今年10月より府の委託事業としてあけぼの学園の保護者対象に「ペアレントトレーニング」をしていただいています。保護者支援の一環として来ていただいています。あけぼの学園の職員も同席し勉強させていただいています。保護者の期待も大きいです。

willから教えていただいた支援についての多様な知識を見守る児童発達支援センターあけぼの学園で、どんどん活用していきたいと思っています。また、今後もこのつながりを大切にしていけたらと願っています。





『第27回 全国自閉症者施設協議会 大阪大会』報告

## 自閉性障がいのある人たちの生涯にわたる 包括的支援のカタチを考える

～「自閉症総合援助センター」の機能と役割を通して～



萩の杜

施設長 <sup>かつ</sup>勝 <sup>べ</sup>部 <sup>しんいちろう</sup>真一郎

平成25年11月14日(木)、15日(金)の両日、大阪府高槻市の「高槻現代劇場」に於いて、第27回 全国自閉症者施設協議会 大阪大会が北摂杉の子会を主管として開催され、全国から約400名の参加者があり、2日間にわたって熱心に意見交換がなされました。

全国自閉症者施設協議会は、自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加のために実践と研究を推進し、さらに、これに参画するものの研鑽と相互交流を促進することを目的として昭和62年(1987年)に発足しました。当法人では萩の杜及びジョブサイトよどが加盟しております。毎年全国大会を全国9のブロックの会員施設が持ち回りで企画・開催しています。今年度の第27回は近畿ブロックの担当となり、当法人が主幹施設として運営にあたりました。

今大会では『自閉性障がいのある人たちの生涯にわたる包括的支援のカタチを考える～「自閉症総合援助センター」の機能と役割を通して～』を大会趣旨としました。

この「自閉症総合援助センター」構想は、全国自閉症者施設協議会が提案し、そのあり方についての様々な議論をしてきました。

今回、改めて大会テーマとして取り上げ、その機能と役割について、現状の障害福祉サービス・制度の活用を通じた実践とそのエビデンス(根拠)に基づいた議論を通して、「自閉症総合援助センター」、即ち自閉性障害のある人たちの生涯にわたる包括的な支援システムのあり方について、考えていく機会としました。

1日目は、濱田 剛史高槻市長を初めとする多くのご来賓の列席のもと開会式を行い、ひき続き2つの基調講演なされ、その問題提起を受けて、シンポジウムを行いました。

基調講演Iでは 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文氏より、「厚生労働省における強度行動障害児者への支援に関する今後の方向性について」と題し、今後の具体的な方向性として①サービス管理責任者等研修カリキュラムの中への強度行動障害支援者養成研修の組み込み②行動援護の基準の改定と重度訪問介護対象拡大③地域における先駆的な取り組みを参考に人材育成を図ることの、3点をそれぞれ検討及び実施する中で、強度行動障害に関する支援の充実を図っていききたいとの講演がありました。

続いて基調講演IIでは全国自閉症者施設協議会 五十嵐康郎会長より、「自閉症総合援助センターの課題と展望」と題し、自閉症総合援助センターについて萌葱の里の実践から、その具体的なあり方と意義、到達点と課題と展望についての講演がありました。

シンポジウムでは、社会福祉法人 はるにれの里 理事長 木村昭一氏より、「地域における自閉症支援の包括的支援システムと支援サービスの創造」と題し、はるにれの里の「入所施設」からの地域移行支援の実践を中心とした話がありました。

続いて、当法人の大阪発達障害総合支援センター 研修相談支援室 センター長 新澤伸子より、

「自閉症・発達障がい者支援の今後のカタチを考える」と題し、教育と福祉の連携について、大阪での実践に基づいた話がありました。

以上2つのお話を受け、基調講演で講演いただいた、日詰正文氏、五十嵐康郎会長も交え、当法人常務理事松上利男のコーディネートのもと、今後の「自閉症総合援助センター構想」を含めた今後の自閉症支援のあり方について、活発な意見交換が行われました。



シンポジウム



濱田 剛史高槻市長のご挨拶

2日目は、以下の6つのテーマで分科会が行われ、それぞれのテーマで活発な意見交換がなされました。

分科会	テーマ
第1分科会	「地域で暮らす。これからの支援のカタチ」 ～地域の中での生活支援・課題と今後～
第2分科会	「職員・職員集団の養成と人材育成のカタチ」 ～障害者虐待防止(法)と 権利擁護の切り口を中心に～
第3分科会	「家族支援のこれからのカタチ」 ～現状の課題と今後の支援のあり方を考える～
第4分科会	「障害特性を活かした生産活動・就労支援」
第5分科会	「高齢化に伴う支援とこれからのカタチ」 ～実態調査から見えるもの～
第6分科会	「専門性を高める」 ～自閉症スペクトラムを持つ人への支援～

私は、第1分科会にコーディネータ・助言者として参加しました。

分科会の概要としては、北海道、埼玉県、長野県と各都道府県における地域生活支援について、3名の支援者からの発題の後、参加者によるグループミーティングを実施しました。

グループミーティングでは、参加者それぞれが日々の実践の中での想いの共有や今回の発題からの気づきを更に深めることができ、また、全体としても支援者同士のネットワークの広がりにつながる非常に有意義な機会になったと感じています。

当法人は第3分科会を担当し、鳥取大学大学院医学系研究科 井上雅彦教授の講演と高槻市教育委員会教育指導課 佐藤美恵副主幹、大阪自閉症協会 福田啓子副会長、NPO 法人全国LD親の会 内藤孝子理事、「自閉症の人のバリアフリーを考える親の会「はぐくみ」」伊藤 雅子会長によるシンポジウムを当法人常務理事松上利男のコーディネートのもと行い、活発な議論が繰り広げられました。

おかげさまで、2日間の大会が盛会のうちに終了することができました。

ご後援を頂きました大阪府、高槻市をはじめ、多くの団体・関係者の皆様方に、この場をおかりして、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

次回、平成26年度の大会は熊本にて開催される予定です。



第3分科会

## 療育支援部

# 『少人数療育』の取り組み



自閉症療育センターLink

支援員・保育士 橋<sup>はし</sup>本<sup>もと</sup>佳<sup>か</sup>奈<sup>な</sup>

### ● はじめに

発達障害児療育支援部では、「自閉症等の特性の理解」・「個別の評価と目標設定」・「支援方法のモデル提示」・「家庭や地域への発展、応用」を療育方針とし、個別の評価をもとに保護者の方と共同で個別支援計画を作成し、療育や保護者研修会等を実施してきました。個別に療育を行うことで、1人ひとりの児童を丁寧に評価することができ、またその児童に合わせた目標や環境設定を行うことで、より療育の効果を高めることができました。

しかし、療育期間は1年間と限られており、療育終了後の直接的な児童へのフォローがありませんでした。また、学校や地域での生活の中では、他の人と場所を共有することや一緒に何かをすること、また他の人との付き合い方などを学んだり、経験したりする必要もあります。保護者のニーズや児童の特性等は個々に異なるため、個別の療育を基本としている現状では、小集団の形態で療育を実施することは困難でした。また、学齢児の事業は「放課後等デイサービス」となりますが、未就学児の児童発達支援に比べると事業に対する報酬単価が低く、現状のように職員と子どもが1対1で対応する療育形態は、制度の求めている児童と支援員の配置基準数と大きく異なり、その様な療育形態では運営的にも厳しいという問題点がありました。そのため、療育の質を低下させずに小集団の学齢児のプログラムを作っていくために、モデル的に実施しました。

### ● 『少人数療育』の実施

学齢児に必要なスキルや社会生活力を育てるこ

とを目標として、「少人数療育」を自閉症療育センター will・Link で実施しました。療育終了後のフォローという観点から、平成23年度に療育を終了された方の中で、保護者のニーズや児童の特性を踏まえ、少人数療育に適切と判断した6名の児童を選定しました。コスト面については、子ども6名に対し職員2名を確保しました。従来行っている個別の療育では保護者も同伴で療育を行いますが、少人数療育の場合は送り迎えのみお願いし、迎えに来られた際にその日の報告を行いました。

### ● 活動内容・配慮のポイント

活動は、児童の興味に合わせ、クッキングやお買い物活動、ゲーム、工作などを行いました。小集団での活動を主に目標に掲げ、個別の支援計画を前期と後期の2回に分けて作成しました。以下に主な配慮のポイントについて挙げていきます。



手順書を見てクッキング

- ①毎回、個別にスケジュールを提示
- ②手順書でルールや役割分担について視覚的に提示
- ③必ず6名全員で活動を行うのではなく、活動内容により役割分担をして2～3名のグループを設定
- ④フリータイムの過ごし方を1人ひとりに合わせて組み立てる
- ⑤児童の興味や得意・不得意に合わせて事前に自分の好きな物を選ぶよう設定

## ● 子どもたちの変化

1人ひとりに合わせて支援をしながら活動を行った結果、率先してお手伝い活動に取り組んだり、自ら他児童をあそびに誘ったりするなど、個別の療育の中では見られない児童の様子を見ることができました。毎回の療育で行っていた振り返りの中でも、「とても楽しかった」や「とても頑張った」などの感想を選択するなど、自己評価も高まったようでした。

また療育回数を重ねるごとにおやつを交換したり、ゲームのときに点数を数え合うなどの児童同士の交流等が増えていきました。小集団の中でも、児童1人ひとりに合わせた個別の配慮を行うことで、それぞれの達成感につなげることができました。



みんなでおやつ

## ● 保護者の変化

保護者とのふりかえりから、「普段、学校の友達と上手く遊ぶことができないので、適切なサポートのもとで、グループの友達と関わりを持ちながら活動できる場はととてもありがたい」や、「楽しく友達と遊んだり、自分の役割を果たしていると聞いて、驚くとともにとても嬉しい」「ゲームの勝ち負けだけで楽しかったかどうかを決めていたが、ゲームの内容を楽しめるようになった」



みんなでゲーム

「学校でも積極的に声をかけて遊ぶようになった」「協調性がでてきた」などの感想を頂きました。

## ● 職員の意識の変化

集団療育を経験することで、子ども同士の関わりなど個別療育の時には想像しにくかった集団での児童の姿を見ることができました。また一方で、個別

療育ではうまくいっていたような活動も、集団での活動になると、自由になる時間が増えたり、設定の曖昧さが増えることで混乱することが多く



係活動

ありました。しかし、集団だからこそ、しっかりと評価を行い、1人ひとりに合わせた支援をすることで、その混乱を減らすことができ、児童たちの達成感につなげることができたと思います。1年間の個別療育を終えた児童たちの2年目の取り組みとして、集団で過ごす際の個別の配慮を考えていくことは適切なステップであると感じています。

このことから、従来行っている個別療育で、1人ひとりに合わせた支援をしていること、保護者にお子さまの特性を理解して頂くために療育や保護者研修を行っていることは、集団で過ごすことにもつなげていける大変重要なものであると再確認することができました。

## ● 今後私たちがすべきこと

少人数療育の経験から、集団の中でも児童ひとりひとりの評価が必要であること、そして個別の配慮をすることがどれだけ重要なのかを実感することができました。

保護者の方は“集団”で行う活動を重視し、目標にしている方が多くいらっしゃいますが、“周りに合わせて皆と同じようにすること”だけが本当に本人にとって必要であるのかも考えて頂きたいと思います。本人の特性を配慮し、集団と合わせられそうなところは合わせる、難しそうなところは本人のペースで行う、ということも大切なのではないのでしょうか。今後は、この少人数療育の経験を活かし、約束事が複雑な園や学校、そして社会生活だからこそ視覚支援や個別の配慮が必要不可欠であることを伝えていきたいと思います。

## 入所施設における成人期の自閉症の方の視覚的な取り組みと 日中活動との連携について



萩の杜 生活グループリーダー

介護福祉士・保育士 <sup>にし</sup> <sup>たに</sup> <sup>さやか</sup>  
西谷 沙也香

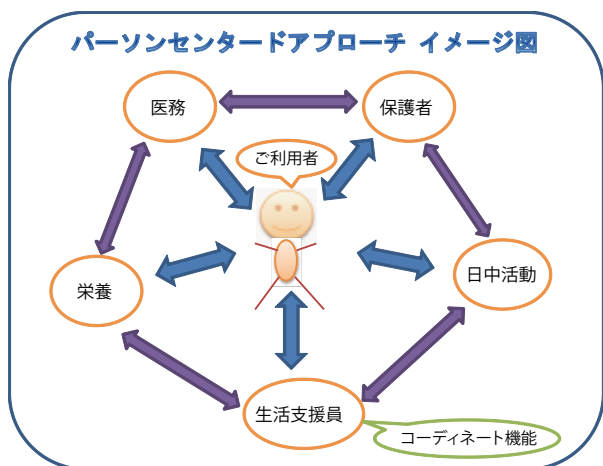
### ● はじめに

私達は、利用者ご本人を中心としたパーソンセンタードアプローチを基本として支援にあたっています。施設入所は24時間365日稼働しており、1つの生活ユニットあたりの常勤生活支援員は3名でローテーションしているため、引き継ぎや連携をどのようにしていくかが重要になってきます。今回のAさんの事例は、施設入所支援内での支援員間の連携と、日中活動支援員とも連携することでAさんにとって安心・安定した生活ができるよう支援を行ないました。

等に関して、支援員への確認の言葉が多く、支援員が個々に関わり方が違うことで、Aさんの要求に対して返答してもしなくても、自分の頬を両手で叩く自傷行為や相手をつねる他害行為につながるがありました。また、傷口を触って悪化させることや、古くなったものは壊してしまうということが行動の特徴としてありました。そのため、支援員もどのように関わっていいのかわかりませんでした。支援を始めるにあたり、目標を「支援員の介入を減らし、自立した生活」とし、支援員間で支援目標の共通認識を深め、支援を開始しました。まず、Aさんの評価を行なうため、\*指示理解チェックを行ないました。その結果、Aさんは言葉の理解が難しいこと、絵や写真を視覚的に提示すると理解しやすいということが分かりました。指示理解チェックでの評価と、日常生活での評価を合わせて支援の組み立てを行ないました。

### ※指示理解チェック

(指示や説明が理解できているか、行動観察や質問により、判断する評価の方法)



### ● Aさんについて

Aさんは重度の知的障害を伴う自閉症の方で、コミュニケーションについて、簡単な単語での要求が可能なので、支援員からの指示は言語で行っていましたが、理解できていないことが多いという現状でした。また、家事、社会スキルは高く、掃除や洗濯等、日常的なことに関しては自立されています。Aさんは気になる活動である「散髪」や外出の予定

### ● スケジュールの導入

絵やカードで理解ができるという評価から写真と

絵を使用したスケジュールにしました。また、ご本人が気にされる活動の見通しが持ちやすいよう、一週間のスケジュールを導入しまし



上から順に1日の流れを示しています

た。また、支援員との関わりも、かかわる時間をスケジュールで提示するなど、ご本人が目で見えてわかるよう構造化を行いました。

### ● 支援員間の対応統一

支援員の異動や配置換え等、支援員が変わっていく中でも、どのようにAさんに声かけするのかなど明確にしておくことで、人によつてのこだわりではなく、全員が同じように対応できるようにすることは大切です。

そこで、ヒゲ剃り等の日課の課題分析を行い、ミーティングの際に評価を実施しました。その評価によって、徐々に苦手な部分が明確になってきたので、支援員間で情報共有をし、その部分を重点的に支援しました。



PLAN → DO → SEEのサイクル

### ● 自閉症の特性・Aさんの特性の理解

Aさんの支援には入所施設、日中活動共に多くの支援員が関わるので、統一した支援を行うためにも、全支援員にAさんの特性と支援方法の文書の配布を行ないました。文書には、Aさんからの確認に対して言葉での返答を止めてもらう意図を記入しました。その結果、以下の変化がありました。

- ①支援員も心苦しい点があったものの、1日で本人の確認の言葉はなくなる!
- ②返してもらえないことでの自傷にはつながらなかった!
- ③特定の支援員に対して、執拗な確認をすることもなくなった!

### ● 研修会の実施と日中活動との連携

研修会は、特に自傷行為が多くあり、支援員も対応に苦慮していた日中活動支援員を対象に実施しました。そこでも自閉症の特性や本人の特性を説明し、自立を目指すという目標の共通理解を深めました。また、入所施設と日中活動先での、自傷行為の記録票記入や所感の統一、スケジュール写真の統一、余暇活動の模索、定期的な振り返りの場をもちました。こうした具体的な連携を深めることで、Aさんの自立性が高まり、安心して生活できる環境に繋がっていきました。

### ● まとめ

Aさんの自立性を高め、安心して生活できる環境を整えた結果、自傷行為の減少に繋がりと、物の破壊、傷口への執着も激減し、生活の幅が広がりました。

私たちもAさんの支援を通して、チームで支援していくことの重要性を再認識しました。チームの中で一人でも支援の方向性が違うと支援は成り立ちません。また、同じ自閉症であっても個々の特性は違うため、特性を理解しその方にあった個別支援をすることの重要性も改めて学びました。そして、24時間トータルで考えた支援をすることで、Aさんにとって、より安心した生活環境にすることができたと考えます。Aさんの支援を通して、関わった支援員が、Aさんの変わっていく姿を見ていく中で、構造化のアイデアもどんどん生まれ、やりがいをもって支援ができたことがさらにチームの結束に繋がったのではないかと感じました。今後もご利用者がより安心して生活できるような支援をしていきたいと考えています。



構造化のアイデア



## マレーシアの障害者就労の視察

ジョブジョイントおおさか

所長 高橋 亜希子

### 1. 視察の目的

2013年3月17日～22日の6日間、NPO法人PandA-J代表の堀江まゆみ先生（白梅学園女子大学教授）、辻川圭乃弁護士、東奈緒弁護士の先生方と、就労支援の現場を知る立場として、マレーシアの障害のある方の暮らしや就労支援の現状を視察することを目的に行ってきました。

マレーシアは障害者権利条約を参照にして2008年障害者法を制定し、2010年には権利条約も批准しています。しかし、2008年障害者法は国連の障害者権利条約の核である差別禁止の理念を採用しておらず、雇用に関しては障害者割当雇用制度を根拠づける明確な規定もありません。そうした意味では、権利条約の批准を誠実に遵守することは困難な状況にある中で、障害のある人の暮らしや、特に障害者雇用についてはどのような実態になっているかを視察するのが大きな目的でした。

### 2. マレーシアの障害のある方の現状

最初に訪問した首都クアラルンプールは、マレーシア経済成長の象徴のように活気にあふれ、どんどん新しいビルが建ち、国の経済発展の勢いが見られました。同時に、貧困世帯が減少し、働く世帯が急増しています。

その反面、農村地域では、重度の障害のある子どもは教育から排除されており、学校に行けてない現状がありました。（身辺自立ができていないと小学校に入れられない決まりがあるため）また、成人においても、農村地域は多数の障害者を取り残されており、家から出たくても出られない（通う場所が少ない

こと、通い先に行く手段がない）ため、在宅生活を余儀なくされている場合が多いことがわかりました。それはマレーシアが、マレー半島の一部とボルネオ島から成りたっていますが、オランウータンが生息するくらいですから、河川とジャングルが多く、車の交通網が発展途上であるため、車が入れない地域もたくさんあるためだそうです。（そういった地域はボートでの移動になる）

障害のある方を支援している機関を数ヶ所視察させていただきましたが、重度の障害のある方（知的障害・身体障害）に対する問題の意識は強くありましたが、私たちが支援する「発達障害者」に対する気づきや支援はまだ不十分であるように思われました。「発達障害の概念」についてですが、日本でいう発達障害は、マレーシアでは「学習障害」と位置づけられており、実際に私が現場支援者の方に質問をしても、その説明が食い違ってしまうことがしばしばでした。

また、国としてもさまざまな障害者施策の充実を進めています。その支援事業所運営に対する国の補助金が十分でなく、ほとんどが寄付金に頼らざるを得ない状況であることがわかりました。



ペナン島

### 3. 障害者就労の現状

まず、マレーシアに本拠地を置き先駆的な取り組みをされている「マレーシアン・ケア」を訪問しました。「マレーシアン・ケア」は①都市と農村部のコミュニティー・ビルディング(通所施設)、②障害者支援(雇用促進のための職業訓練、障害者育児支援等)、③麻薬予防、麻薬中毒者や元犯罪者の社会復帰およびHIV対策の3つの柱からなる活動を行っているNGOです。特に今回の視察では、②の障害者支援を中心に話を伺いました。16歳以上の青年・成人期の障害のある人のためのディプログラム(作業



「マレーシアン・ケア」の手順書訓練)、雇用支援プログラムを実施しており、日本でいうなら就労継続B型と就労移行の両方の事業をしている形態に近いと思います。ディプログラムは、月曜日～木曜日の9時～16時半まで実施し、企業からの下請け作業を中心に、就労生活のために必要な整容、安全、健康、性等についての学習支援と、パソコンスキルアップやボランティア活動を行っています。このプログラムで訓練した後、企業への雇用支援へと展開されます。「マレーシアン・ケア」では、ジョブコーチ支援を積極的に実施しており、飲食店、巨大スーパー等への雇用支援が進んでいます。これは、先述の2008年障害者法が制定され



たことと、翌2009年9月から3年間、JICAがマレーシア社会福祉局と共に「障害者の社会参加支援サービスプロジェクト」を展開してきたことが背景にあります。障害のある人の雇用を支

援するためのジョブコーチの養成やジョブコーチ養成研修の講師の育成、制度の設計・整備などを通じ、障害者の雇用・自立を支援し、社会参加を促進してきました。ジョブコーチ養成研修には、日本のNPO法人ジョブコーチネットワークが協力しており、現在では、日本版のジョブコーチ支援がマレーシア国内でも研修が行われるまでに、広がっています。

マレーシアで障害者雇用が積極的な企業は、ケンタッキーフライドチキンです。店舗数も日本のマクドナルド並みに多く、軽度の知的障害のある人が店舗の下準備や補充で働いています。発達障害のある人の得意な分野でもあるパソコンのデータ入力等の領域は日本よりまだ少ないようでした。また、日本の障害者雇用のトップを誇るユニクロもマレーシアに進出しており、今後マレーシアでも雇用が期待できるのではないかと思います。

### 4. 最後に

視察させていただいた施設の多くを、以前、厚生労働省にいらっしゃった中澤健さんが、アレンジしてくださいました。中澤さんは、20年前からマレーシアで障害のある方の支援活動を積極的に展開され、現地の方々といくつかの施設を立ち上げてこられました。

現在、中澤さんが運営していらっしゃる「ムヒバセンター」は、日本からの寄付金を資金源として、2008年9月に開設されました。開設時はNGOとして設立されたが、運営資金には安定収入を要するため、現在は政府からの補助金も提供されている



ムヒバセンター



PDK（※注1）の一つでもあります。（NGOとPDKの融合型としての運用というスタイル）



障害のある人が携わることができる活動として、さおり織り（小物、バック等、タペストリー等）、ローケツ染め、廃油せっけんづくり、昼食づくり（キッチン）、製菓（クッキー・パン・ケーキ）、リサイクル等日本の障害者施設でも馴染みのある活動を展開されていきました。

また、もう1点印象的だったのは、当事者活動や自己決定支援について積極的であったことです。ピープル・ファースト（※注2）の世界大会等にも参加され、障害のある人の当事者活動のサポートも積極的に行われていました。

マレーシアの障害者支援の姿勢は、当事者の希望や考えを尊重し、支援者は当事者の視点に立っ

てサポートをするという共通認識があるように感じられました。利用者と支援者が対立関係であったり、支援者が上で利用者が下というような上下関係もなく、お互いに穏やかで、笑顔に触れる機会が多くありました。地域で障害のある方を受け入れ共生している姿にあるべき姿を見たような気がしました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さり、ありがとうございました。

（※注1）

マレーシアでは、障害のある人や子どもの集まるPDKというセンターが障害者支援の中核となっており、マレー語でPemulihan Dalam Komunitiの略で、英語ではCommunity Based Rehabilitation（CBR）、日本語では「地域に根差したリハビリテーション」と訳されます。専門家や病院、施設などの専門機関が少なく、あるとしても都市に集中しており農村との地域格差がある発展途上国への障害者援助の方法としてWHO（世界保健機構）によって提唱され、1981年に「障害者自身やその家族、その地域社会の中の既存の資源に入り込み、利用し、そのうえに構築されたアプローチ」として定義されました。

（※注2）

知的障害者が自分たちの問題を自分たちで、自分たちのために発言することを目的に組織化された団体

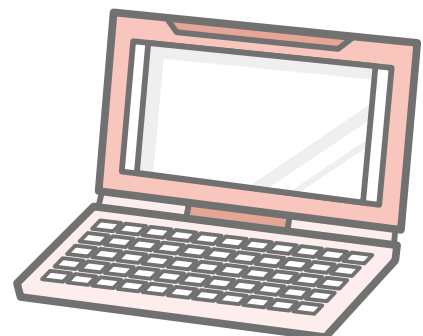


## 北摂杉の子会のホームページ 更新情報

(平成25年9月～11月)

北摂杉の子会のホームページ (<http://www.suginokokai.com>) では、様々な法人の活動や情報提供をリアルタイムで掲載しております。  
 過去3ヶ月のホームページ更新状況をお知らせいたします。  
 ホームページでは、機関誌のバックナンバーもご覧いただけます。  
 ご興味のある方は『北摂杉の子会』で検索して、ぜひアクセスしてご覧ください！

掲載ページ	内 容
各施設のご案内	an 新聞・will 新聞・Link 新聞掲載
お知らせ	朝日新聞厚生文化事業団作成のDVDにジョブジョイントおおさかのご利用者とジョブジョイントおおさか所長 高橋亜希子が出演
	ジョブジョイントおおさか「2013年度夏 発達障害学生のためのインターンプログラム 実践報告会」開催のお知らせ
	ジョブジョイントおおさか「2013年下半期 見学会・ご利用についてのご案内」掲載
	自閉症療育センターLink 公開講座のご案内
	自閉症療育センターwill 公開講座のご案内
	児童デイサービスセンターan 公開講座のご案内
	「第8回ジョブサイトよどまつり」を開催
よどのコロック	イベント販売&お知らせ
Café Be	ランチメニュー更新
	Café Be ミュージック・ディ情報更新



# 掲示板コーナー

(平成25年9月から平成25年11月まで)

## 法人本部総務部掲示板

9月	行 事
8日	平成26年度 法人採用説明会 (高槻南スクエア)
9日	経営会議 法人採用応募者施設見学会 (ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか)
11日	法人採用応募者施設見学会 (萩の杜・レジデンスなさはら・ぶれいすBe)
12日	法人採用応募者施設見学会 (will)
13・14日	運営会議
17~20日	発達障害のある学生インターン受入
18日	自閉症啓発デー会議 (法人本部会議室)
25日	総務会議

10月	行 事
6日	平成26年度 採用筆記試験 (高槻現代劇場306室)
7日	経営会議
11日	平成26年度 採用一次面接 (法人本部会議室)
11・25日	運営会議
16日	全国自閉症者施設協議会会議 (高槻現代劇場306室) 自閉症啓発デー会議 (法人本部会議室)
23日	総務会議
24日	平成26年度 採用二次面接 (法人本部会議室)
26日	平成25年度第2回法人全体研修 (高槻現代劇場レセプションルーム) ①「障害者の虐待防止とガバナンス」 常務理事 松上利男 ②虐待防止に関するグループワーク

11月	行 事
5日	経営会議
10日	第88回理事会・第50回評議員会 (高槻市生涯学習センター 研修室) 第1号議案 諸規程類の改正の件 第2号議案 平成25年度 社会福祉法人 北摂杉の子会 補正予算(案)の件
14~15日	第27回全国自閉症者施設協議会全国大会 (高槻現代劇場) 『自閉性障害のある人』たちの生涯にわたる包括的支援のカタチを考える ～「自閉症総合援助センター」の機能と役割を通じて～
25日	運営会議
26日	総務会議

(河辺 記)

### 第27回全国自閉症者施設協議会全国大会



## 萩の杜 掲示板

### 萩の杜 旅行報告

秋の行楽シーズンをむかえ、萩の杜でもたくさんの旅行企画を実施しました。普段の生活の場から離れ、ご利用者の新しい一面をみることもできました!!



10月29日～30日

静岡県浜松市舘山寺温泉

夜はカラオケで盛り上がりました!

ラストは

「恋するフォーチュンクッキー」を  
熱唱しました♪♪♪



11月19日 姫路&京都旅行

世界遺産姫路城（改修中）と京都の紅葉をそれぞれ楽しみました!

12月4日  
大阪交通博物館旅行

萩の杜の「鉄ちゃん」も  
満足された様子でした!



### 自己紹介

9月より萩の杜で働いている  
真船 亮です。  
よろしくお願いします。

(山根 記)

## ジョブサイトひむろ掲示板

(9~11月のレクリエーション・行事)

9~11月の外出時や作業風景の写真を掲載しています。

今期は各グループのレクリエーションに加え、ひむろ旅行や地域のイベントに参加した際の良い表情をたくさん撮ることができました。

### ◎ ひむろ旅行 (蒜山高原・鳥取砂丘) ◎

9月28日



### ❖ 折りコングループレクリエーション ❖

11月14日 京都水族館



### 総合福祉フェアでのイベント参加/ 自主製品販売

11月19日



### ◎ 事業所交流会 ◎

11月18日



(湯岡 記)

## 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

9月	行 事
2日	大阪府障がい者自立支援協議会 発達障がい児者支援体制整備検討部会 子どもワーキンググループ 問診表検討ワーキングチーム 第2回会議 発達障がい者支援コーディネーター派遣事業 (以下、コーディネーター派遣事業) 箕面：もみじの家 訪問 第1回
6日	アクトおおさか主催研修 応用講座 第2回
7日	アクトおおさか“グループミーティング” 第3回
10日	コーディネーター派遣事業 高石：コラル明日架 訪問 第1回
11日	大阪府成人期発達障がい者地域支援体制サポート事業 (以下、サポート事業) 実地研修(アクトおおさかでの初回面談の陪席) (高槻：あんだんて) コーディネーター派遣事業 東大阪：ふう 訪問 第1回
19日	コーディネーター派遣事業 門真：サンタ・ランド 訪問 第1回
20日	コーディネーター派遣事業 寝屋川：まごころステーション 訪問 第1回 富田林市自立支援協議会 研修講師
30日	アクトおおさか“家族グループ” 第3回 サポート事業 実地研修(家族グループの陪席) (豊中：る～ぶ)

10月	行 事
4日	アクトおおさか主催研修 応用講座 第3回
7日	サポート事業 実地研修 (初回面談の陪席) (豊中：る～ぶ)
18日	コーディネーター派遣事業 高石：コラル明日架 訪問 第2回 コーディネーター派遣事業 寝屋川：まごころステーション 訪問 第2回 大阪府人権総合講座 人権総合相談員養成講座 講師
21日	アクトおおさか“ご家族向け学習会” 第2回
28日	アクトおおさか“家族グループ” 第4回 サポート事業 実地研修(家族グループの陪席) (豊中：る～ぶ) 厚生労働省委託事業 発達障害者就労支援者育成事業委員会
31日	コーディネーター派遣事業 大東：ハートフル大東 訪問 第2回

11月	行 事
1日	コーディネーター派遣事業 箕面：もみじの家 訪問 第2回
1～2日	発達障害者支援センター職員研修 (国立リハビリテーションセンター)
6日	コーディネーター派遣事業 東大阪：地域生活支援センターふう 訪問 第2回
8日	サポート事業 訪問 (実践報告について) (高槻：あんだんて) サポート事業についてのヒアリング (八尾：ちのくらぶ)
12日	サポート事業についてのヒアリング (熊取：熊取療育園)
13日	アクトおおさか連絡協議会 参画及び講師依頼 (大阪府教育委員会 支援教育課 支援学級グループ)
15日	コーディネーター派遣事業 門真：サンタランド 訪問 第2回
16日	内部研修「TTAPの概要」第1回 アクトおおさか“グループミーティング” 4回目
18日	サポート事業についてのヒアリング (豊中：る～ぶ)
20日	泉南市自立支援協議会 研修講師
22日	大阪府発達障害者団体ネットワーク
26日	コーディネーター派遣事業 交野：みのり 訪問 第2回
27日	内部研修 講師：河口 剛 医師 (三国ヶ丘病院)
28日	サポート事業についてのヒアリング (河内長野：かーな)
29日	府内3センター情報交換会 大阪障害者職業センター 雇用支援連絡協議会
30日	内部研修「TTAP実施法」第2回

(岩城 記)



応用講座の様子

## 研修相談支援室・PASSO 掲示板

9月	行	事
9日	保護者のための思春期連続講座パート1 第3回 (14名参加) 和泉市巡回相談 5回目 幼稚園	
13日	摂津市巡回相談 4回目 小学校 大阪市淀川区社会福祉協議会 講師派遣	
20日	高槻市 ペアサポート巡回相談 4回目 小学校 四條畷市障害福祉課 講師派遣	
27日	本人支援コース 家族グループ第3回目 (8名参加) 豊能町巡回相談 2回目 小学校	
30日	和泉市巡回相談 6回目 幼稚園	

10月	行	事
7日	保護者のための思春期連続講座パート2 第1回 (7名参加)	
11日	高槻市ペアサポート巡回相談 5回目 小学校	
18日	高槻市ペアサポート巡回相談 6回目 小学校 和泉市巡回相談 7回目 小学校	
25日	摂津市巡回相談 5回目 小学校 豊能町中学校 講師派遣	
29日	和泉市教育委員会秋季テーマ別研修 小学校教諭対象 (12名参加)	
31日	和泉市巡回相談 8回目 小学校 高槻市立第八中学校 講師派遣	

11月	行	事
6日	島本町支援教育研究協議会 講師派遣	
11日	泉大津市巡回相談 2回目 小学校	
15日	摂津市巡回相談 6回目 小学校 子ども発達支援センター青空(虹の会) 講師派遣	
18日	和泉市巡回相談 9回目 幼稚園	
22日	高槻市ペアサポート巡回相談 7回目 小学校 港育成園 講師派遣	
29日	茨木市子育て支援課 講師派遣	



大好評のパート1に続き、10月から3回連続で「発達障がいのお子さんの保護者のための思春期連続講座パート2」を開講しました。

思春期ならではの課題や子どもへの関わり方について、少人数ならではの距離感で、参加型の研修を行っています。次年度も開講予定です!

(新澤 記)

## 発達障がい児療育支援部掲示板

### ○児童デイサービスセンター an

9月	行	事
6日	保護者研修入門A	
7日	施設見学会	
13日	保護者研修入門B	
20日	保護者研修実践	
21日	施設見学会	

10月	行	事
4日	保護者研修入門A	
5日	施設見学会	
11日	保護者研修入門B	
18日	保護者研修実践	
26日	法人研修	

11月	行	事
1日	保護者研修入門A	
8日	保護者研修入門B	
9日	施設見学会	
12日	後期個別の支援計画作成面談開始	
29日	保護者研修実践	
30日	新規療育児募集説明会・決定者説明会	

### ○自閉症療育センター will

9月	行	事
6日	保護者研修入門A	
13日	保護者研修入門B	
20日	実践交流会	
21日	施設見学会	
24日	ケース会議	
27日	スタッフ会議	

10月	行	事
4日	保護者研修入門A	
11日	保護者研修入門B	
25日	スタッフ会議	
26日	法人研修	
30日～ 11月8日	後期個別支援計画面談期間	

11月	行	事
15日	公開講座	
26日	ケース会議	
29日	実践交流会 スタッフ会議	
30日	施設見学会	

### ○自閉症療育センター Link

9月	行	事
4日	ケース会議	
6日	保護者研修入門A	
7日	施設見学会	
13日	保護者研修入門B	
20日	スタッフ会議	
27日	実践交流会	

10月	行	事
4日	保護者研修入門A	
5日	施設見学会	
11日	保護者研修入門B	
25日	実践交流会	
26日	法人研修	
30日～ 11月8日	後期個別支援計画面談期間	

11月	行	事
9日	施設見学会	
29日	公開講座	

(谷岡 記)

## ジョブサイトよど掲示板

9月	行	事
2日	日帰り旅行	
4日	日帰り旅行・法人内サッカー練習	
6日	十三中学校 コロッセ外販	
10日	エアロビクス・消火通報訓練	
12日	健志整骨院前 コロッセ外販	
13日	指導センター 十三市 コロッセ外販	

19日	マルシェ コロッセ外販
20日	十三中学校 コロッセ外販
22日	サイクルピクニック コロッセ外販
24日	エアロビクス
26日	歯科検診
27日	大阪市役所 コロッセ外販



10月	行	事
3日	セレッソ大阪	派遣スクール（法人内）
4日	十三中学校	コロッケ外販
6日	長居秋まつり	コロッケ外販
8日	エアロビクス	
10日	健志整骨院前	コロッケ外販
11日	指導センター	コロッケ外販
12日	食の文化祭	コロッケ外販
13日	食の文化祭 成蹊大学学祭	コロッケ外販
16日	御堂筋・復興支援ふれあいバザー	コロッケ外販
17日	法人内サッカー練習・マルシェ	コロッケ外販
18日	防災訓練・十三中学校	コロッケ外販
19日	ふれあい祭り(高槻)	コロッケ外販
20日	淀川河川敷フェスティバル	コロッケ外販
22日	エアロビクス	
24日	レントゲン検査・健志整骨院前	コロッケ外販
31日	歯科検診	

11月	行	事
1日	十三中学校	コロッケ外販
5日	エアロビクス	
7日	健志整骨院前	コロッケ外販
10日	J-GREEN堺合同サッカースクール	
12日	御堂筋ふれあいバザー	コロッケ外販
13日	十三市	コロッケ外販
15日	十三中学校	コロッケ外販
17日	中央区社福フェスタ	コロッケ外販
19日	エアロビクス	
21日	健志整骨院前	コロッケ外販
23日	よどまつり	
24日	Friendly Action	サッカー大会当日
28日	クリスマスマルシェ	コロッケ外販
29日	指導センター	コロッケ外販

(田端 記)

❖ よどまつり ❖



ダンス



輪投げ

❖ 日帰り旅行 ❖



## ふれいす Be 掲示板

9月	行	事
6日	大阪総合福祉専門学校より実習生1名を受入（～10月4日まで）	
7日	カフェコンサートを開催（出演：ゴスペルグループ「プレス！」様） 午前・午後合わせて110名様ご来場	
8日	カトリック高槻教会でガレットの販売	
9日	内部研修として「感染症対策」を開催（スタッフ26名参加）	
14日	アロマカフェ	
20日	大阪府立大学より実習生2名を受入	
21～22日	西武高槻店で開催された「高槻ご当地グルメ」にてガレットの販売	

施設見学：6件31名

10月	行	事
7日～ 11月8日	日本知的障害者福祉協会より実習生1名を受入	
9・16・30 日	藍野大学より実習生計6名を受け入	
12日	土曜開所日として、各チームで余暇プログラムを実施	
12～13日	「高槻食の文化祭」にてガレットの販売	
19～20日	「スペシャルアート展」にてガレットの販売	
23日	「とんだマルシェ」にてガレットの販売	
27日	「右近フェスタ」にてガレットの販売	

施設見学：3件19名

11月	行	事
2～3日	「北摂地デカラフェスタ」にてガレットの販売	
6～7日	高槻第二中学校より職業体験として生徒3名を受入	
6日	藍野大学より学生2名の実習を受入	
16日	土曜開所日として各チームで余暇プログラムを実施	
18日	郡家小学校より社会科見学として生徒10名を受入 内部研修として「救急救命講習」を開催（スタッフ32名参加）	
24日	「フレンドリーアクションフェスティバル」（サッカー大会）に ご利用者2名が参加	

施設見学：6件37名  
(下 記)



カフェコンサート



サッカー大会

土曜日開所

### ジョブジョイントおおさか-たかつきランチ-掲示板

9月	行	事
7日	土曜開所日／土曜クラブ	
9日	避難訓練	
11日	ASDのある人の職業準備プログラム研究会の開催（第3回目）	
25日	事業所見学会（ジョブジョイントおおさか）	
28日	家族ミーティング／JJOBの会	
30日	会社見学会／(株)JR西日本あいウィルへ訪問	

10月	行	事
5日	発達障害学生のためのインターン秋のプログラム／学生向けのガイダンスの開催	
7日	事業所見学会（たかつきランチ）	
7～18日	第3四半期個別支援計画懇談	
14日	発達障害学生のためのインターン秋のプログラム 事前プログラム（個別面談、ビジネスマナー講座、作業体験）	
19日	土曜開所日／土曜クラブ	
21日	事業所見学会（ジョブジョイントおおさか）	
22日	発達障害学生のためのインターン夏のプログラム／実践報告会の開催	

11月	行	事
1日	発達障害学生のためのインターン秋のプログラム／合同ガイダンス	
2日	家族ミーティング（たかつきランチ）	
11日	事業所見学会（ジョブジョイントおおさか）	
19日	会社見学会／日本パーソナルセンター(株)へ訪問	
25日	事業所見学会（たかつきランチ）	

（星明 記）

## 萩の杜家族会掲示板

9月	行	事
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
22日	カトリック高槻教会にて花の販売	
25日	5家族会会長懇談会	
27日	サークル萩（手作り品の作成と情報交換会） 定例会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホットトーク 開設5年目のフレットでの取組みについて</li> <li>・施設からの報告（勝部施設長）</li> <li>・安全対策委員会報告（木戸副施設長）</li> <li>・資金・広報・会計・事務局各グループからの報告</li> </ul>

10月	行	事
7日	ワンデイショップバザー参加	
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
13日	奥坂コミセンバザー参加	
21日	安全対策委員会	
23日	広報グループ、機関紙55号発送協力	
24日	サークル萩（手作り品の作成と情報交換会）	
27日	カトリック高槻教会バザー参加	

11月	行	事
11日	イオンのイエローレシートキャンペーンに参加	
12日	勉強会「障害者の地域生活の推進に関する議論の整理」 講師：松上常務理事 萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよど、ぶれいすBe家族会参加、 総数36名出席	
14・15日	第27回全国自閉症者施設協議会大阪大会に有志出席	
24日	定例会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリートーク（30分）</li> <li>・施設からの報告（勝部施設長）</li> <li>・安全対策委員会報告（木戸副施設長）</li> <li>・資金・広報・会計・事務局各グループからの報告</li> </ul>	
27日	5家族会会長懇談会	

（植松 記）



11月12日の勉強会の様子

## ジョブサイトひむろ家族会掲示板

9月	行	事
9日		ご逝去された利用者松本和也様方弔問
10日	第2回定例会（現代劇場206号 会員40名出席）	議題1 法人現状報告及びジョブサイトひむろ移設について 沖本副理事長、平野地域生活支援部長、森田施設長より 議題2 ケアホームアンケートについて 平野地域生活支援部長より 議題3 施設長報告 森田施設長より 議題4 高槻ふれあいバザーについて 議題5 その他 訃報、お知らせ配布
25日	第3回5家族会会長懇談会（法人本部 豊澤会長、東なさはら家族会会長出席）	
26日	三島の郷見学会（会員19名参加）	

10月	行	事
9日	第3回役員会（カフェBe）	議題1 三島の郷見学会報告 議題2 施設長報告 議題3 会員名簿作成について 議題4 次回定例会の日程及び議題について 議題5 高槻ふれあいバザーについて 議題6 ひむろ移設について
17日	なさはら親の会第1回定例会	議題1 レジデンスなさはら状況報告 議題2 次期ケアホーム計画相談
19日	高槻ふれあいバザー 市役所前 売上97,680円	
23日	広報委員会 機関紙55号発送（事務局役員）	

11月	行	事
6日	第3回定例会（現代劇場206号 会員42名出席）	議題1 法人から（中村理事長からの文書を豊澤会長代読） 議題2 高槻ふれあいバザー結果報告 議題3 ひむろ移設進捗状況 平野地域生活支援部長より 議題4 ケアホームアンケート結果報告 平野地域生活支援部長より 議題5 次年度役員候補について 議題6 施設長報告 森田施設長より 議題7 その他 農園収穫祭案内配布、家族会名簿記載事項確認
12日	北摂杉の子会家族会会長懇談会勉強会に有志15名参加	
19日	北摂杉の子会後援会役員会（豊澤会長、新田様、永田様出席）	
27日	第4回5家族会会長懇談会（法人本部 豊澤会長、東なさはら家族会会長出席）	クリスマスプレゼント買い出し（会計、事務局役員）

（宮階 記）

## 高槻ふれあい福祉バザー報告

実施日 平成25年10月19日  
 参加者 ジョブサイトひむろ家族会会員有志  
 ジョブサイトよど職員有志  
 ジョブサイトひむろ森田施設長  
 売上額 97,680円

当日は天候不安定でしたが、開催時には雨も上がり9時過ぎには大勢のお客様が来られ、開店時には押すな押すなの盛況でした。

展示品が厳選されていた事、そして参加者が新調になったエプロンを着用、又売り場にはこれまた新調になった幟旗も目を引き大きな成果につながったものと思います。バザー参加の趣旨として、売り上げもさることながら、会員相互の親睦についても十分にその成果を上げたものと考えております。

来年も皆さんのお力で成果を上げたいと思っております。



押すな押すなの大盛況



後援会ご寄付による「地域にいきる」エプロン

## ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会掲示板

9月	行	事
2日	役員会開催	100円喫茶実施
6日	オアシス役員会	で100円喫茶実施
10日	大阪自閉症協会連絡会	で100円喫茶実施
13日	十三市	に参加
25日	5家族会	会長懇親会に参加
26日	オアシスサロン	で100円喫茶実施
30日	勉強会	オアシス共催 (参加14名) 松上利男 常務理事をお迎えして、行政の動き、法人の動きをご指導してくださいました。100円喫茶実施

10月	行	事
3日	オアシス役員会	で100円喫茶実施
7日	勉強会	オアシス共催 (参加11名) 大阪府発達障害支援 堀内桂 センター長をお迎えして、大阪府の状況、就労について学びました。100円喫茶実施
	役員会開催	100円喫茶実施
13日	十三市参加	オアシスの子どもたちがおせんべいの売り子を体験
21日	10月定例会	(参加21名) 淀川区役所市民協働課 若松氏をお迎えして災害について学びました。100円喫茶実施
22日	ジョブジョイントおおさか	大学生のインターシップの実践報告会に参加。(会長、役員)

11月	行	事
5日	オアシス役員会にて	100円喫茶実施
11日	勉強会 オアシスと共催 (参加10名) 大阪市発達障害支援センター長 井上芳子氏をお迎えして大阪市の状況。就労支援について学びました。100円喫茶実施 役員会開催 100円喫茶実施	
12日	法人の家族会の勉強会 (参加5名) 松上利男 常務理事に厚生労働省で論議されていることを詳しく教えていただいた。	
13日	十三市参加	
14~15日	全国自閉症者施設協議会大阪大会両日参加 (参加4名)	
22日	大阪府発達障害団体ネットワークに参加 (役員2名)	
23日	よどまつりに参加	
24日	知的障害者サッカー振興事業スポーツフェスティバル2013に応援 (会長、役員)	
29日	オアシスサロンで	100円喫茶実施

(福田 記)



受付にて



バザーの様子



うどん販売の厨房



100円喫茶

## ぶれいす Be 家族会掲示板

9月	行	事
5日	コーラスグループ「コールつばさ」	練習会（辰巳さん宅）
9日	コーラスグループ「コールつばさ」	練習会（今城塚公民館）
12日	役員会（ぶれいす Be 会議室）	（出席者 12 名） 審議報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学会のスケジュールの詳細</li> <li>・定例会の準備作業</li> <li>・機関誌掲示板原稿の確認</li> <li>・父親の会（8/31）の報告</li> <li>・定例会で「ヒヤリハットの事例」報告を施設長からしていただく</li> <li>・「家族会紹介パンフレット」のレイアウトと配布先について</li> </ul>
13日	参観&ランチ（第三回）	（担当西郷）（参加者 3 名） 感想「施設の外回りの見学。今年の夏は水やりが大変だったそうですが、ご苦労のかいあって木や花が良く育っていることに感心」「クリーニング作業のスピード・仕上がりは一段と改善され、顧客が増えるのも納得」「ランチ&コーヒーは相変わらずのおいしさで、ごちそうさまでした」。
25日	5 家族会会長懇談会	（出席者：本城）
26日	コーラスグループ「コールつばさ」	練習会（今城塚公民館）

10月	行	事
3日	コーラスグループ「コールつばさ」	練習会（今城塚公民館）
10日	コーラスグループ「コールつばさ」	練習会（今城塚公民館） 役員会（ぶれいす Be 会議室）（出席者：11 名、施設長を含む） 審議報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会の準備（出欠の確認、配布資料の確認、役割分担）</li> <li>・参観&amp;ランチ（第三回）の報告</li> <li>・見学会のお知らせ文書の決定</li> <li>・「Be どうし」原稿の承認</li> </ul>
12日	定例会（カフェ Be）	10 時より 12 時まで 参加者：26 家族（29 名）。来賓：中村節史・北摂杉の子会理事長。下施設長 審議報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期の活動報告（本城会長）収支報告（和田会計担当）</li> <li>・下半期の活動計画（本城会長）</li> <li>・「ぶれいす Be 家族会紹介パンフレット」を作成したので、会員ならびに非会員、職員、外部関係者等々に配布して、会員数の増加を図る</li> <li>・中村節史理事長より「全体の方針計画・今年度の運営・現時点の問題点」についてお話しして頂く</li> <li>・下施設長より「ぶれいす Be 下半期に向かって」についてお話しいただく</li> <li>・質疑応答の時間のあと、コーラスグループ「コールつばさ」の発表（参会者の暖かい拍手）があり閉幕</li> <li>・会終了後「定例会のお礼」を全会員に配布</li> </ul>
15日	参観&ランチ（第四回）	（担当：辰巳、北川、厚東）出席者：8 名 クリーニングでは布団のカバー掛け作業が新たに加わり、それに応じて取引先が増えたこと、中庭を中心に口の字型に人が移動できることなど「新たな」発見も。ガレット製造のビデオを見ながらランチ、気の遠くなるような丁寧な仕事ぶりに一個 150 円では安いとの声も。家族会会員数を増やす必要性、日中一時支援事業の現状と課題、就労後に「ぶれいす Be」との関係が切れることへの心配等々、二時間以上たっても話しはつきませんでした。



11月	行 事
7日	生活支援センター「あゆ」見学会。参加者：21名。 10時半にマイクロバスで「ぶれいすBe」出発。大森センター長より施設概要・設立の経緯等について説明を受けた後、施設内を見学、最後においしいパンを購入して帰途につく。「カフェBe」でランチをしながら懇談。「お母様方のパワーに圧倒された」「私たちも少しは頑張らなくては!!」「二階建て、利用者が20名近くおり、かえって開放的な雰囲気がしてた」「建設予定地の確保がものごとのすべての出発点であることがよくわかった」「法人と家族会との今一層緊密な連携が必要だと痛感した」等々、熱心な話し合いが利用者の帰宅時間まで続きました。
10日	北摂杉の子会理事・評議員会（出席者：本城）
12日	会長懇談会主催「勉強会」。時間的制約もあり役員4名が参加。松上常務理事のご講演は有益だったので、「ぶれいすBe」にもお招きして、同様な「勉強会」を開催したいという点で出席者の意見は一致した。 コーラスグループ「コールつばさ」練習会（富田公民館）
14日	役員会（ぶれいすBe会議室）出席者12名＋施設長 審議報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の会案内文書の最終確認と配布</li> <li>・今年度の法人への寄付手続きについて</li> <li>・次期役員募集アンケートについて</li> <li>・参観＆ランチ（第四回）、生活支援センター「あゆ」見学会、会長会主催「勉強会」についての報告と感想</li> <li>・機関誌発送業務の手伝いの体制作り</li> </ul>
15日	全国自閉症者施設協議会大阪大会（高槻現代劇場）（出席者：本城）
21日	参観＆ランチ（第五回）（担当：野崎、本城）出席者6名。 施設内の見学、各部屋ともそれぞれ作業が活潑に行われており、昨年度になかった新しい工夫が随所に感じられた。ランチ、「ガレットの出来るまで」のビデオ鑑賞の後、ショートステイのこと、ガイドヘルパーの利用のこと、グループホーム・ケアホームのこと、家庭での過ごし方等々、各人の状況・思うことを時間の許す限り話し合った。
27日	5家族会会長懇談会（出席者：本城）

（厚東 記）

## 自閉症児・者を支援する親の会 オアシス掲示板

9月	行 事
6日	オアシス役員会
22日	親子交流会 サンタマリア号に乗ろう
26日	オアシスサロン開催
30日	ジョブサイトよど家族会との共催勉強会 講師:松上利男 常務理事

10月	行 事
2日	ホットメールなにわ会合 副会長、相談役参加
3日	役員会
7日	アクトおおさか 堀内先生勉強会ジョブサイトよど家族会との共催
22日	オアシスサロン開催

11月	行 事
5日	役員会
11日	大阪市発達障害者支援センターエルムおおさか 井上先生 勉強会 ジョブサイトよど家族会との共催
22日	大阪府発達障害者団体ネットワーク会 会合 会長、相談役参加
29日	オアシスサロン開催

(村井 記)

## 北摂杉の子会 後援会掲示板

本会の活動に対して萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会、ぶれいすBeの家族会の皆様を含めて多くの方々にご支援をいただき、まことにありがとうございます。今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます

### <会員数の推移>

9月 個人会員：528名、団体会員：20団体  
合計：548名／団体 寄付：なし

10月 個人会員：531名、団体会員：21団体  
合計：552名／団体 寄付：1件

11月 個人会員：532名、団体会員：21団体  
合計：553名／団体 寄付：5件

(11月末までの新規会員)

個人会員：42名、団体会員：5団体

合計：47名／団体

### <報告事項>

1) 今年度の11月末までに24件、337,771円の寄付、1,072,000円の会費、合わせて1,409,771円の資金を頂きました。ご協力ありがとうございます

2) 11月19日（月）に臨時役員会を開催

- 事務局が10月までの会員数及び寄付、資金の推移について報告した
- 団体会員への入会依頼について協議した
- 今年度の後援会から法人への寄付（180万円）の使途、実施状況が法人総務部長から説明された

(棚山 記)



## 寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座まで。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座北摂杉の子会  
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

**銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会 理事 中村節史  
口座番号：5085555**

法人へのご寄附に感謝いたします。(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

高松育男 河端良一 市川 篤 浦松一嘉 棚山薫晴 竹内 東洋秀 松本範雄 森田 弘 中村節史 福田啓子  
真野利之 蛭 豊 成田憲彦 NPO法人はるもにあ理事長 清水 聡

後援会入会と会費納入(平成25年5月3日～平成25年11月20日)

木下美代子 宮本雅子 橋本健史 高木隆志 匿名様 キンキ寝具株式会社 木下治一 濱田誠治 本射三重子  
米田たか 森田 弘 森田豊子 森田俊博 森田靖紀 森田和成 今中貴子 篠原琴美 甲木和子 甲木 翠  
溝江キチヨ 田寺雅幸 田寺文字 田口和人 田口容子 田口敦夫 笠原隆之助 倉本ことみ 井上惇子 伊福久子  
大谷千由子 井上陽子 川崎舞子 宮地和子 富宅由美子 大上直子 調 佳枝 関山ゆきみ 中尾泰子 藤田晴美  
辻本秀子 久常進治 久常和子 匿名様 山里将夫 米田和一 向井満子 前田直俊 山田健一 藤井弘子  
坂口 誠 関 隆志 関 登美子 関 典子 共和運輸株式会社 富田カズミ 宮城良博 広井良平 広井 泉  
徳本晴美 倉本 周 小林和美 小林夏子 吉田保子 今井恵美子 新谷 敦 長嶺真佐子 山里文男  
佐々木久美子 加茂明男 新川 彰 川田紀久夫 野口健司 黒澤和子 真鍋宣子 小林美代子 奥 昌子  
篤田晴子 長良恭行 高島鴻志 高島美津子 西坂徹雄 村山宣明 関 良子 八里さだ 戸田純子 強田純子  
株式会社二井清治建築研究所 株式会社イッシン ダイキユウ総合観光株式会社

後援会への寄付(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

新川 淳 諸富信子 本吉貞子 宮本東雨 津田敬子 大仲由香子

家族会へのご寄附に感謝いたします。(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

田口容子 田口恵美子 植松芳哲 ふくろう森クラブ

物品のご提供に感謝いたします。(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

不二園芸 上里浩子 坂井恵美子 岡田公子 竹中陽子 田口道代 藤原 島井  
阿間三保子 長井 チャーム美容室 藤本寿子 池田敬子 杉田鍼灸院 関西産業株式会社  
千里ハウジング株式会社

ボランティアに感謝いたします。(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

ふくろう森クラブ(6名) 野村 朝日 前地 進 藤堂 尾沢 坂井恵美子 佐々木英世 今村美佐代

(敬称略 順不同)

## 施設住所一覧

- **社会福祉法人北摂杉の子会 法人本部事務所**  
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル203  
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155  
[E-mail] info@suginokokai.com  
[URL] http://www.suginokokai.com
- **知的障害者生活施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)  
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130  
[E-mail] haginomori@suginokokai.com
- **萩の杜ショートステイセンター ぶれす**  
(短期入所・日中一時支援)  
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0130  
[E-mail] breath@suginokokai.com
- **ケアホーム とんだ** (共同生活介護)  
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
- **ケアホーム みやた** (共同生活介護)  
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1 105号室
- **レジデンスなさはら** (共同生活介護)  
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
- **ジョブサイトひむろ**  
(生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型)  
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27  
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222  
[E-mail] himuro@suginokokai.com
- **高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be**  
(生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)  
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号  
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900  
[E-mail] placebe@suginokokai.com  
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
- **生活支援センター あんだんて**  
(指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)  
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号  
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900  
[E-mail] andante@suginokokai.com
- **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか**  
(発達障害者支援センター事業)  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号  
TEL (06)6100-3003 FAX (06)6100-3004  
[E-mail] act-osaka@suginokokai.com  
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- **研修相談支援室・PASSO**  
(法人独自の公益事業〈検査・相談・研修・本人支援・講師派遣〉)  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号  
TEL&FAX (06)4862-5454  
[E-mail] o-center@suginokokai.com  
[URL] http://oasc.jp
- **児童デイサービスセンター an**  
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06)6838-8990 FAX (06)6838-7015  
[E-mail] an@suginokokai.com  
[URL] http://oasc.jp
- **自閉症療育センター will**  
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)  
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F  
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056  
[E-mail] will@suginokokai.com
- **こども相談支援センター wish**  
(指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)  
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F  
TEL (072)605-1140 FAX (072)662-0056  
[E-mail] wish@suginokokai.com
- **自閉症療育センター Link**  
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)  
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F  
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412  
[E-mail] link@suginokokai.com
- **ジョブサイトよど** (生活介護・就労継続支援B型)  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015  
[E-mail] yodo@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか**  
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号  
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007  
[E-mail] jj@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか たかつきプランチ**  
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)  
〒569-0072 高槻市京口町9番3号 関西産業ビル4F  
TEL (072)668-1123 FAX (072)668-1165  
[E-mail] jj@suginokokai.com

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会  
理事長 中村 節史  
発行所 北摂杉の子会  
住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1  
発行日 2014年1月10日  
定価100円